

中間処理による減量化を除いた場合の再生利用の状況

1 産業廃棄物の減量化の状況

本県における平成 28 年度の産業廃棄物の中間処理における減量化率は 50.1%（全国値 44%）となっています。

種類別でみると、廃アルカリが 90.4%（全国値 77%）と最も高く、続いて汚泥が 83.3%（全国値 92%）、廃酸が 71.2%（全国値 66%）となっています。

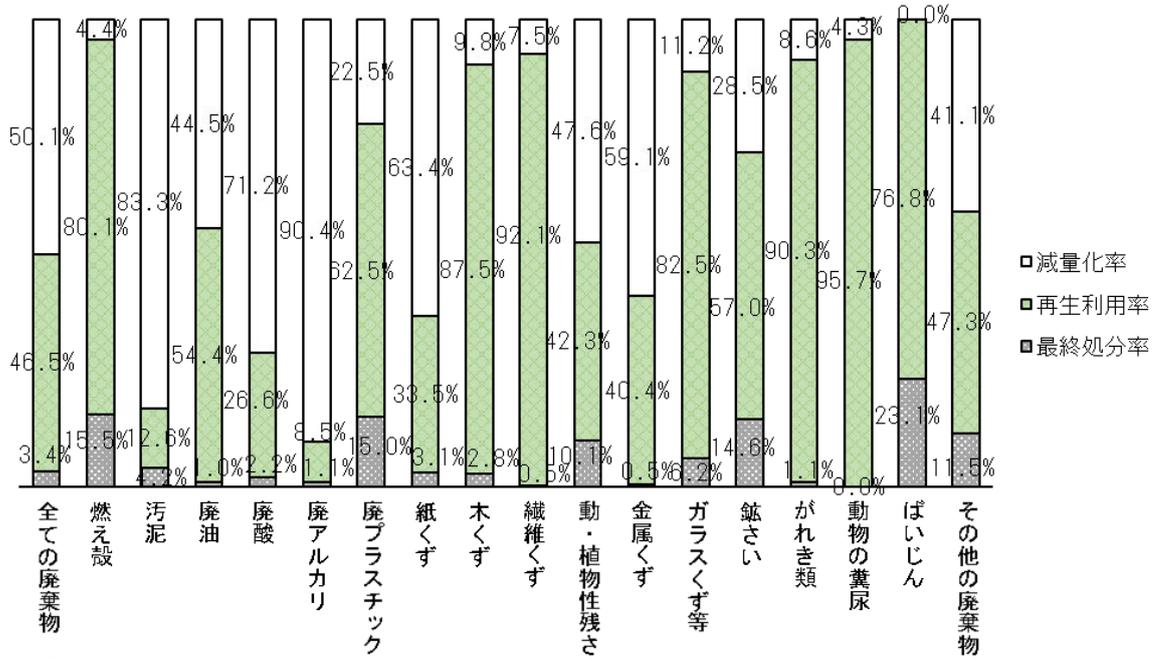


図 1 三重県の産業廃棄物の種類別の処理状況（平成 28 年度）

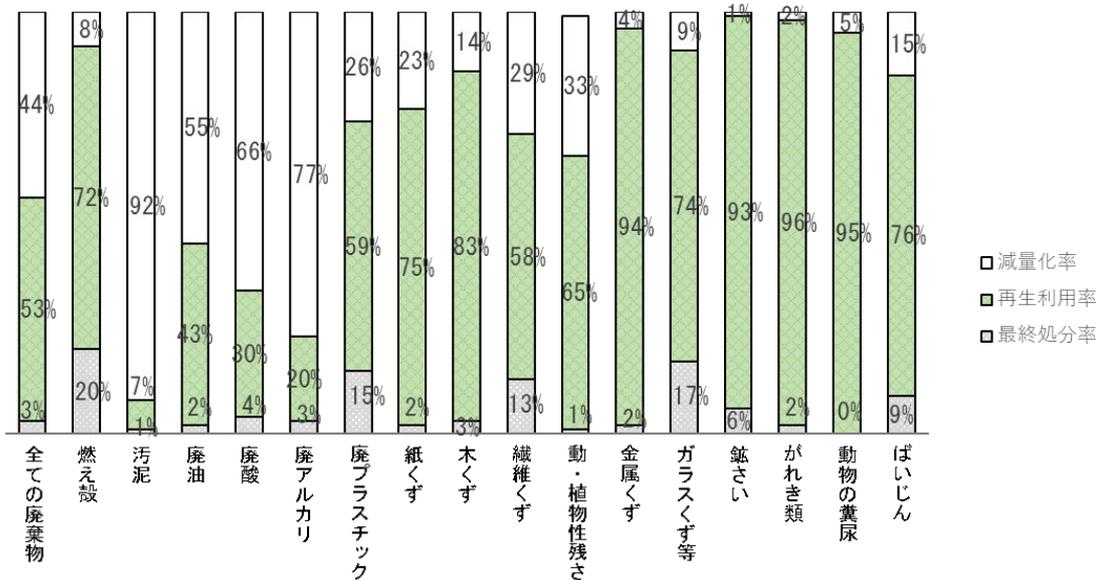


図 2 全国の産業廃棄物の種類別の処理状況（平成 28 年度速報値）

2 減量化を考慮した場合の再生利用の状況

減量化を考慮した場合の産業廃棄物の再生利用率は93.1%（46.5%）※となっています。

減量化率の高い種類別でみると、廃アルカリが88.4%（8.5%）、汚泥が75.1%（12.6%）、廃酸が92.4%（26.6%）などとなっています。

なお、汚泥においては、排出量が3,733千t、減量化量が3,109千t、再生利用量が469千t、最終処分量が155千tとなっています。

※（ ）内は減量化量を含む再生利用率となっています。

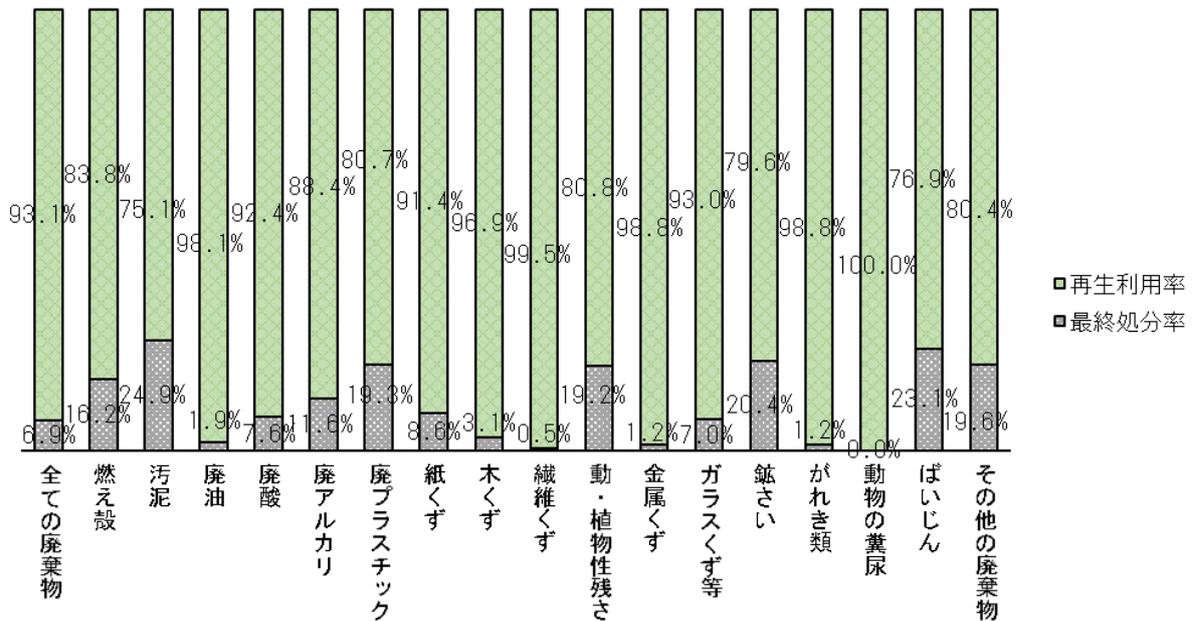


図3 三重県の間接処理による減量化を考慮した場合の種類別の処理状況（平成28年度）

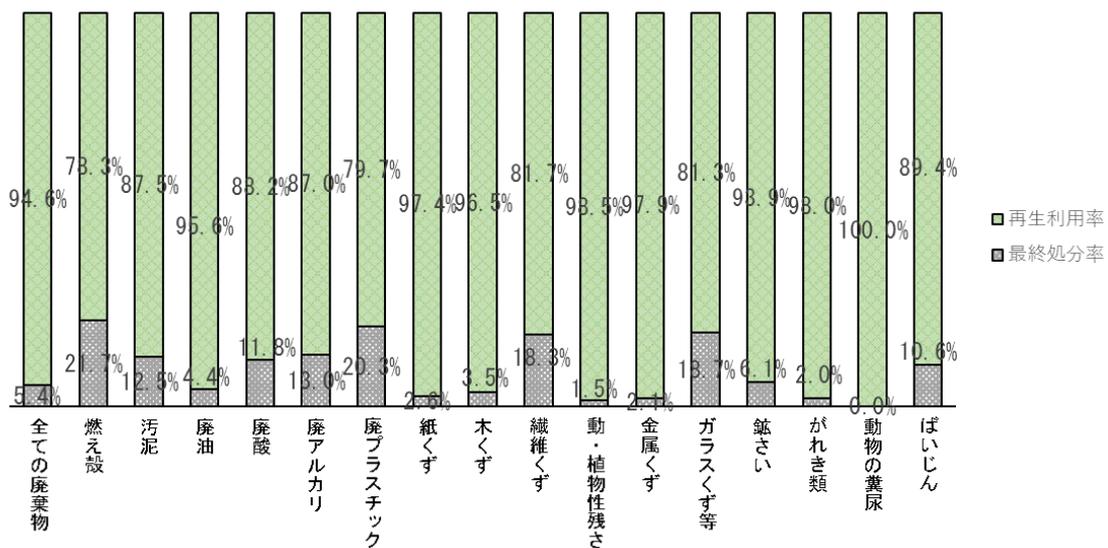


図4 全国の間接処理による減量化を考慮した場合の種類別の処理状況（平成28年度）